

診療所事務長はどんな仕事をしているのか。そんな疑問に、一般社団法人診療所事務長会のメンバーが答える。2回目は、同会会長で医療法人一尚会事務長の谷口竜介氏だ。

## コスト意識を磨き 利益増につなげる

### 谷口竜介氏

医療法人一尚会事務長



たにぐち・りゅうすけ ● 専門商社などで顧客管理、営業職に従事。2009年に一般事務として診療所に転職。非常勤医師として勤めていた現診療所院長と知り合う。現院長の開業にあたり、事務長に着任。以降、在宅部門立ち上げ、法人設立、分院展開など法人運営にかかわる。また、診療所事務長会会長も務める。

酬の仕組み、薬価、患者1人当たりの単価などを知らないまま仕事をしている人が多いことです。企業で営業をしていれば、売上や利益、給料とのバランスなどを意識せざるを得ません。メーカーなら、販売価格は原価にいろいろなマージンが乗っていることを知っている人が多いのではないのでしょうか。

なぜ医療界では気にしないのか。「利益を追求しない医療に専念する」「企業のように倒産しないと思っている」「ブラックボックスに包まれている」——から。さまざまな理由があるのかもしれませんが、潰れていく医療機関が存在する以上、どんな理由も言い訳にすぎません。そのため、診療所の利益を左右する立場にある医師には、コスト意識を持っていた方がいい働きかけます。

先日、非常勤医師に「患者さん1人当たりの単価がいくらか知っていますか」と聞いたところ、「え〜、知らないなあ」との返答が。そこで、参考までに、「1人単価約4000円ぐらいです」と説明したところ、「じゃあ3人診療すれば、俺の給料が出るんだな」とおっ

しゃいました。「計算は合ってますけど、根本的に全然違いますから〜」と心中で絶叫した私は、医師の給料が出るだけでは診療所は成り立たないということを、改めて説明しました。

複雑な保険制度の話は別として、診療報酬の点数を上げることができるのは、基本的に医師です。医師から指示を受け、看護師が行う処置や注射などの点数は微々たるものでしかなく、医師の診察料、投薬料、検査料、判断料、手術料、管理料によって成り立っています。当然、受付や看護師、コメディカルの給料もここから出るわけです。診察室を使用するには、賃料や冷暖房費もかかります。駅に広告を出し、広告費を支払ったバスが市内を走っています。それをすべて医師が叩き出した診療報酬点数でまかなっていることを説明し、日頃の業務を労います。が、決してほめすぎません(笑)。

「そういうわけで、1時間当たり〇人は診ていただかないと診療所は成り立たないのですよ」とつけ加え、現実を目を向けていただくようにしました。理事長が医師に直接言いづらいことは、私が間に入ってとりまとめる。そうして陰ながら成果を出すよう促し、診療所を潤すのも事務長のミッションなのです。

#### 一般社団法人診療所事務長会

<https://cl-manager.com/>

2016年1月発足の診療所事務長会の。診療所事務長や院長などが集まり月1回の勉強会を開催しているほか、日々の仕事についても互いに助け合っている

**前**回、松田邦彦事務長もお話していたとおり、事務長の仕事は経理、人事・労務、総務から請求業務まで多種多様です。その気になればすべての業務に携われるのも魅力です。

当院は医師10人のほか、作業療法士、精神保健福祉士や臨床心理士20人、看護師5人、医療事務8人の総勢45人が在籍するメンタルクリニックです。理事長との間に立ち、分院長や医師とのコミュニケーションを図ることもやりがいのある業務の1つです。

他業界から転職してきたからか、医療界に入って以来ずっと気になっていることがあります。それは、医療機関は多くのスタッフが働いているにもかかわらず、経営がどう成り立っているか、診療報